

## 経営状況分析評点 ( Y )

$$X_1 (\text{純支払利息比率}) = \frac{\text{支払利息} - \text{受取利息配当金}}{\text{売上高}} \times 100$$

「下限：5.1 上限：-0.3 (小数点第4位四捨五入)」 計算結果が低い数値程高評価になるため、「-0.3」を上限値としています。

$$X_2 (\text{負債回転期間}) = \frac{\text{流動負債} + \text{固定負債}}{\text{売上高} \div 12}$$

「下限：18.0 上限：0.9 (小数点第4位四捨五入)」 計算結果が低い数値程高評価になるため、「0.9」を上限値としています。

$$X_3 (\text{総資本売上総利益率}) = \frac{\text{売上総利益}}{\text{総資本 (2期平均)}} \times 100$$

「下限：6.5 上限：63.6 (小数点第4位四捨五入)」  
 個人の場合、売上総利益 = 完成工事総利益  
 総資本 = 負債純資産合計  
 総資本 (2期平均) = 3000万円に満たない場合は、3000万円 とみなす

$$X_4 (\text{売上高経常利益率}) = \frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100$$

「下限：-8.5 上限：5.1 (小数点第4位四捨五入)」  
 個人の場合、経常利益 = 事業主利益

$$X_5 (\text{自己資本対固定資産比率}) = \frac{\text{自己資本}}{\text{固定資産}} \times 100$$

「下限：-76.5 上限：350.0 (小数点第4位四捨五入)」

$$X_6 (\text{自己資本比率}) = \frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}} \times 100$$

下限：-68.6 上限：68.5 (小数点第4位四捨五入)」

$$X_7 (\text{営業キャッシュ・フロー}) = \frac{\text{営業キャッシュ・フロー}}{1 \text{億}} \quad (\text{2期平均})$$

「下限：-10.0 上限：15.0 (小数点第4位四捨五入)」  
 営業キャッシュ・フロー = 経常利益 + 減価償却実施額 - 法人税住民税及び事業税 ± 引当金増減額 ± 売掛債権増減額  
 ± 仕入債務増減額 ± 棚卸資産増減額 ± 受入金増減額  
 引当金 = 貸倒引当金 (注1)  
 売掛債権 = 受取手形 + 完成工事未収入金 (注2)  
 仕入債務 = 支払手形 + 工事未払金 (注1)  
 棚卸資産 = 未成工事支出金 + 材料貯蔵品 (注2)  
 受入金 = 未成工事受入金 (注1)  
 増減額：(基準決算の額) - (基準決算の直前の審査基準日の額)  
 (注1) 増の場合は加算、減の場合は減算  
 (注2) 増の場合は減算、減の場合は加算

$$X_8 (\text{利益剰余金}) = \frac{\text{利益剰余金}}{1 \text{億}}$$

「下限：-3.0 上限：100.0 (小数点第4位四捨五入)」  
 利益剰余金 = 利益剰余金合計  
 個人の場合、利益剰余金 = 純資産合計

「小数点第4位四捨五入」について

国土交通省発表『経営事項審査の事務取扱いについて』内『告示第一の二関係』では、「... (中略)... 数値 (その数値に小数点以下5位未満の端数があるときは、これを四捨五入する) を百分比で表したものとす」と記載されておりますが、上記計算式では百分比 (100倍) 後の数値を小数点第4位で四捨五入しているため、結果的には同意となります。

$$A = \frac{-0.4650 \times X_1 - 0.0508 \times X_2 + 0.0264 \times X_3 + 0.0277 \times X_4 + 0.0011 \times X_5 + 0.0089 \times X_6 + 0.0818 \times X_7 + 0.0172 \times X_8 + 0.1906}{1} \quad (\text{小数点第3位四捨五入})$$

$$Y = 167.3 \times A + 583 \quad (\text{小数点第1位四捨五入})$$